

全日本民医連第41回総会(2/27~3/1長野)が開催されます!

2年に1度開催され、今回で41回となる全日本民医連の定期総会が2/27(木)~3/1(土)の日程で、長野市で開催されます。

すでに職員の皆さんにも総会に提案される運動方針案が配布されていると思いますが、今回の総会では、①現在の情勢をつかみ、私たちの課題と役割を明らかにする、②2012年2月に開催された40回総会から2年間の活動を総括し、次回総会までの2年間の方針を決定する、③41期の役員選出と予算確定を行うことを目的としています。

今回の総会には、香川民医連から右記の5名の代議員が参加する予定です。また、方針案の読了については、平病の医局などで職場単位での読み合わせが行われている他、感想文提出もまるがめ歯科、平病 OP 室などすでに100%提出を達成した事業所・職場も生まれています。

総会方針は今後2年間の私たちの活動の指針となるものですので、全事業所・職員がもれなく学習・読了を進めていきましょう。

総会に参加する

原田医師 (平病医局)
 藤原部長 (協同病院地域ケア部)
 山地師長 (みき診)
 藤本主任 (みき診)
 須那薬剤師 (公園前薬局)

香川民医連の代議員

☆提出された感想文から☆

- ・「戦争をしない国」であり続けるための取り組みは急務です。若い世代に伝えていかななくては、「遊ぶの楽しい」「仕事も楽しい」、だけど「戦争は絶対にダメ」と言える人々を増やさないと。
- ・厳しく複雑化していく現代においては、民医連の確固たる「いのち」を守っていくという根本的なことを見据えることこそ最も大切なことであるとひしひしと感じました。普段から原発問題、TPP、秘密保護法、増税などについてざっくばらんに話ができる機会を増やすようにしていく必要を感じた。
- ・「一般急性期病床の削減」「地域包括ケアへの転換」「在宅医療のあり方」など、民医連が直面する課題であり、また経営に直結するため、医師不足をどう補い、新たな突破口をどうつかむかを包括的に早期に構築しなければならない。

県連リハビリテーション部会ミニ学会(2/15)を開催しました!

県連リハビリテーション部会では、年に1回「ミニ学会」を行っています。主な目的は、各院所での日々の取り組みをまとめて発表する学術的な側面と、急速な人員増加により100名を越えた現リハビリテーション部会内の交流としています。

今年度も2/15(土)にホテルパールガーデンにて、第8回のミニ学会を開催しました。今回は5月から自由応募という形で演題募集を開始し、各院所より10題のエントリーがありました。急性期・回復期・維持期と多岐にわたる演題内容であり、5分という僅かな質疑応答時間でしたが、積極的な意見交換が行われました。



人数が増えると同じ職場内でもお互いの興味や関心、取り組んでいることを知ることは難しくなります。最近の医療・介護分野では連携という言葉が頻りに耳にしますが、まずは、私たち自身がお互いを知ることの重要性を再確認することができました。今後も自己研鑽と連携の意味合いでこのような学会を継続していく事ができればと考えています。

(高松協同病院通所リハ 船橋圭)